

**第2期佐用町地域福祉計画策定に向けた  
アンケート  
結果報告書  
【団体へのアンケート】**

**令和4年10月  
佐用町**

# 目次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	結果の見方	1
II	調査結果	2
1	団体・組織の基本事項	2
1-1	組織形態	2
1-2	会員または職員の人数	2
1-3	活動年数	3
1-4	中心的な活動場所	3
1-5	活動範囲（地域）	3
1-6	地域活動の頻度	4
2	取り組んでいる地域活動（地域で行う公益的活動）について	5
2-1	取り組んでいる地域活動の分野	5
2-2	地域の方々の日常の困りごと・地域の問題	6
2-3	対応の可否	8
2-4	他のボランティア団体や公共団体等との交流や協力関係	12
2-5	交流や協力を希望する団体	13
2-6	他の団体と実施したい内容	14
2-7	身近な地域での情報共有のしくみ	15
2-8	地域活動を行ううえでの困りごと	16
2-9-1	町民や行政とのパートナーシップ	17
2-9-2	町民や社会福祉協議会とのパートナーシップ	17
2-10	地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには	17
2-11	町民の自主的な地域活動を活発にするためには	18
2-12	自由記述	22

# I 調査概要

## 1 調査の目的

『第2期佐用町地域福祉計画』の策定に向け、の福祉に対する意識や、地域における活動への参加状況などの実態を把握することを目的に調査を行いました。

## 2 調査の方法

種別	団体・組織へのアンケート
調査対象	佐用町内の地域福祉に関する団体・組織
調査地域	佐用町全域
調査方法	郵送配布・回収
調査期間	令和4年9月1日～9月20日
配布数	231件
回収数	159件
回収率	68.8%

## 3 結果の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

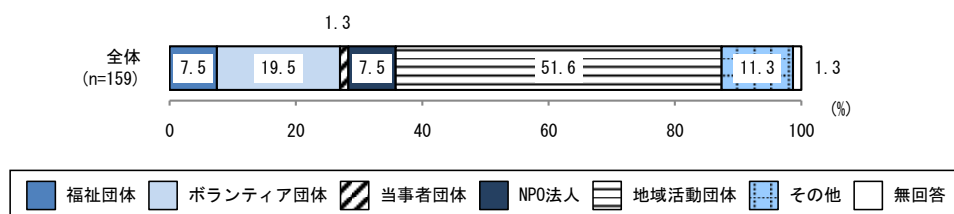
## II 調査結果

### 1 団体・組織の基本事項

#### 1-1 組織形態

問1 組織形態は、次のどれにあてはまりますか。【1つに○】

組織形態は「地域活動団体」が51.6%と最も高く、次いで「ボランティア団体」が19.5%、「その他」が11.3%となっています。



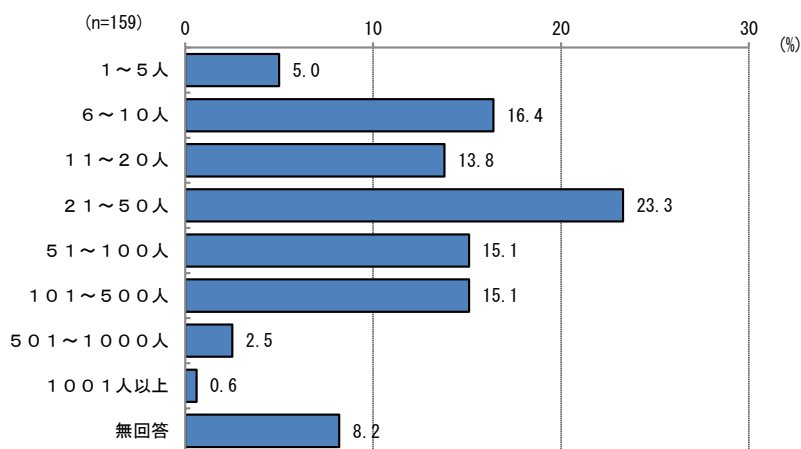
#### 「その他」を回答した団体・組織の主な記述内容

- ・株式会社 ・医療法人 ・公共社団法人 ・保育園 ・小学校 ・中学校
- ・保護司会 ・介護老人保健施設 ・小規模多機能型居宅介護 ・福祉施設
- ・町の附属機関 ・学校関係者、行政、学校医で委員を構成

#### 1-2 会員または職員の数

問2 会員または職員はおよそ何人ですか。( ) 内に数字を記入してください。

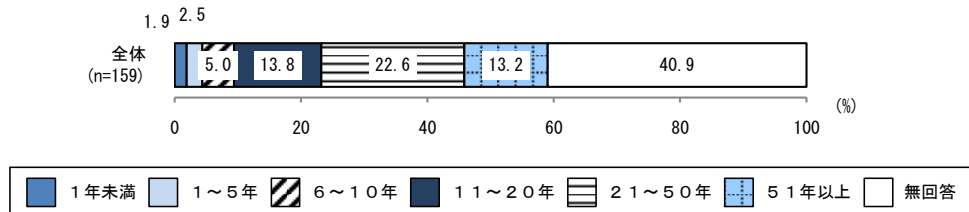
会員・職員数は「21～50人」が23.3%と最も高く、次いで「6～10人」が16.4%、「51～100人」と「101～500人」が15.1%となっています。



### 1-3 活動年数

問3 発足しておよそ何年になりますか。( )内に数字を記入してください。

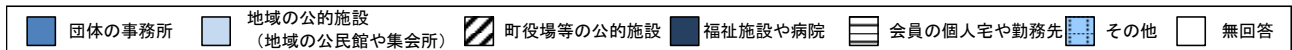
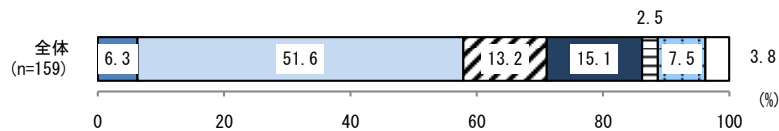
活動年数は「21～50年」が22.6%と最も高く、次いで「11～20年」が13.8%、「51年以上」が13.2%となっています。



### 1-4 中心的な活動場所

問4 活動場所はどこですか。最も中心的な場所を選んでください。【1つに○】

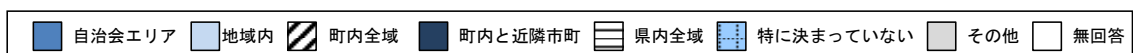
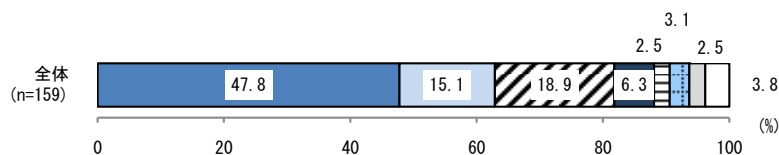
中心的な活動場所は「地域の公的施設（地域の公民館や集会所）」が51.6%と最も高く、次いで「福祉施設や病院」が15.1%、「会員の個人宅や勤務先」が13.2%となっています。



### 1-5 活動範囲（地域）

問5 活動範囲（地域）は、次のうちどれにあたりますか。【1つに○】

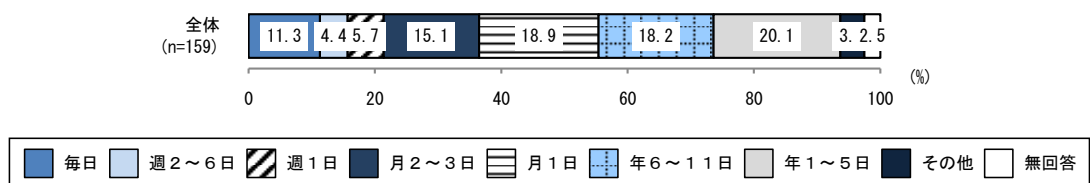
活動範囲は「自治会エリア」が47.8%と最も高く、次いで「県内全域」が18.9%、「地域内」が15.1%となっています。



## 1-6 地域活動の頻度

問6 どのくらいの頻度で地域活動を行っていますか。【1つに○】

地域活動の頻度は「年1～5日」が20.1%と最も高く、次いで「月1日」が18.9%、「年6～11日」が18.2%となっています。

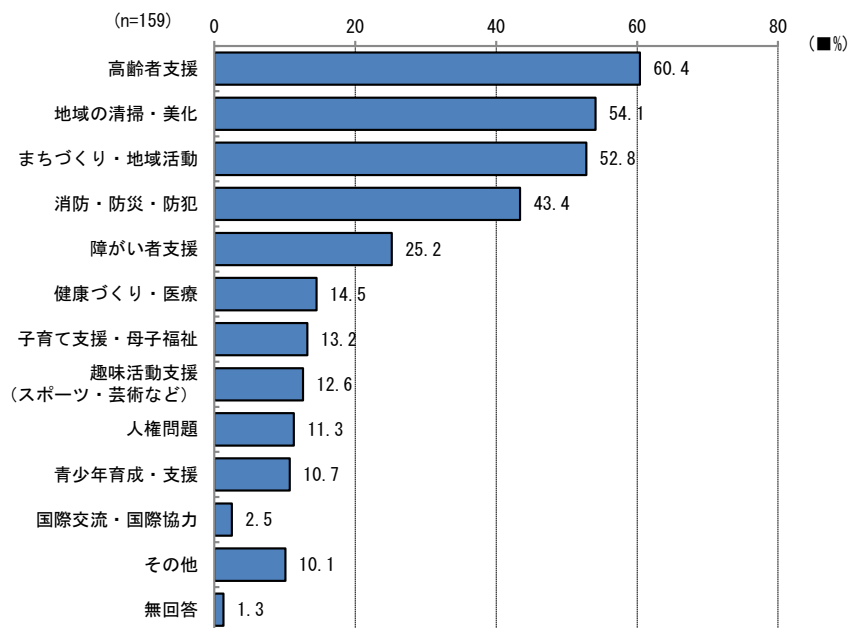


## 2 取り組んでいる地域活動(地域で行う公益的活動)について

### 2-1 取り組んでいる地域活動の分野

問7 取り組んでいる地域活動の分野は、次のどれにあてはまりますか。【あてはまるものすべてに○】

取り組んでいる地域活動の分野は「高齢者支援」が60.4%と最も高く、次いで「地域の清掃・美化」が54.1%、「まちづくり・地域活動」が52.8%となっています。



## 2-2 地域の方々の日常の困りごと・地域の問題

問8-1 普段活動する中で、地域の方々からどのような日常の困りごと、地域の問題などを聞きますか。

### ① 高齢化による団体活動の問題

地域の高齢化が進み、今後の地域活動が課題。
高齢化等で活動できる人数が少なくなっている。
高齢化が進み活動する人材不足で大変である。
住人の高齢化で活動が出来ない。
高齢者が増えたため活動ができない。
高齢で活動が難しい。
少子高齢化のため人が集りにくい。
高齢者が多く若い人に作業の負担がかかる。
高齢化が進み、人があつまりにくい。
少子高齢化に伴う会員数の減少。会員の高齢化のため活動することが困難。
会員の高齢化により参加者の減少。
高齢化が進み、地域の行事や、神社の奉仕作業が出来にくくなった。災害時に避難所まで、避難できない。
人が少なく、高齢化した。現状を維持することが難しい。
人口(自治会内の)減、高齢化、小学校保育園児が少ない。
(農福連携)地域の過疎化、高齢化による人材不足。
高齢化により今までと同じように、地域活動に参加できなくなってきた。夜間での集会は、行けなくなってきた。活動の中心となるのも高齢者であり前向きな地域活動はできなくなってきた。
部落事業をするとき高齢者多数の参加者が少ない。若い人や子どもが少ない。
高齢化で地域の作業ができなくなった。
自治会会員の高齢化により、行事に参加できる人数が少なくなって、地域の美化清掃や祭の御輿の担い手が少なくなって行事が徐々に難しくなってきた。

### ② 高齢化による生活の問題

高齢になり、生活に不安を感じられている。息子家族は都会やからなかなか帰ってくる事がなく、又、自分の体調もだんだん思うように動けない。
高齢化による支え合い。
高齢者外、足・腰が弱り出歩き出来ない。
高齢者の一人暮らし高齢者2人の家庭が多くなり買い物などに困っている何かの行事があっても足がないので参加ができない。
高齢者独居、夫婦二人世帯で、救急車を呼ぶ程ではないが、体調不良時の医療機関へ行く交通手段がない(定期受診はさよさよサービスを利用)。
高齢者家族が多くなっている。
高齢者の1人暮らしまたは夫婦世帯で生活ができているか心配どうしたら良いか。どのような福祉サービスがあるか分からない。サービスを利用したいがどうしたら良いか。
高齢になり、外出機会が減った一人暮らしの方の話し相手がいないこと。障がい者入所施設で入所者の人達が外部の人と話しをする機会が少ない事。
1人暮らしの高齢者が多く、ごみ出し、買物、畑の管理など相談受けることあり。
庭木の手入れ管理が出来なくなった。草刈りが出来なくなった。話し相手がなくなった。
独り暮らし(高齢者の夫婦これからの事が心配。田畑のみでなく、家まわりの草の始末できない。少子化のみならず、どんどん人口(家)が減ること。
認知症の独居生活、徘徊、感染症の自覚。
終活について(農地、山林、家の片付け)一人暮らしでの不安(災害、病気)
過そ地なので、将来が心配。高齢化が進み、活動に限界がある。
敬老会案内等々配布時に相談や健康等々を聞きます。
養護老人ホームへの入所資格について質問が多い。



### ③ 新型コロナウイルス感染症の問題

3年にもわたる誰もが初めて体験したコロナ禍における障がい者を取りまく環境の変化、特に施設等を利用している(児)者との面会等の自縮禁止等、コミュニケーションがとれなくなっている現状。
コロナ禍の中、携帯電話等でのコミュニケーションが増える一方で、SNSでの誹謗中傷やネット依存など青少年にとって悪影響も多い。
コロナもあり、困っていることがあるか、もわからない。
いまだ終息しないコロナ禍の毎日、会本来の目的=コミュニケーションの減、縮小、禁止。「障がい者(児)との面会、施設での会合(保護者会研修・面談、交流等)」一日も早い終息に期待しています。
現在、コロナで全ての活動は中止しています。
コロナで遊ばせるところがない 少子化で家の近くに子どもが少ない。

### ④ 子ども・若者の問題

母親と子どもの遊びの場、他のママさん達とのコミュニケーションの場があまりない。
児童数の減少(子どもの姿を見ない)。
小中高校の児童・生徒の問題行動等に関する相談や、住民から行政に対するクレームなど。

### ⑤ 自然環境・美化の問題

健康のこと・農地の維持管理・行事への参加・生活道や水路等の維持・管理(草刈や修繕)・ひとり暮らし等の不安・山林の維持管理。
免許返納により買い物、通院などに苦労している。・自己所有の山林や竹やぶの手入れができず、道路に倒れかかるなど迷惑をかけている。(気にされている)
田んぼの後継者がいないので、稲作は当然できないし、保全管理がままならず、どこも荒地化している。今後ますます悪化の可能性あり。
害獣による田畑の被害、高齢化、後継者不足による不耕作地の増加。
耕作改善地発生、農地の引き受けが悪い。
猿、猪、鹿その他の動物による獣害。交通の不便による買物。移動販売車が週1回来るが商品が限定される。不在地主の耕作放棄地の草刈。
獣害、耕作放棄地、空き家、人口減少、高齢化、少子化、子どもがいない。
中山間地域エリアの一部の草刈りを、年3回程行っているが高齢者も多く、年々人数も減り、草刈り作業が大変になっている。
自宅付近の草刈等々。
空き家の雑草や樹木など。
空き家問題～雑草が生い茂り、動物の住み処となっている。自動車に乗れないので、買い物等に不便。
空き家及び周辺の雑草処理。
資源ゴミの分別ができない。悪徳商法への注意喚起・対応が難しい。
小規模部落なのに谷川が5ヶ所あり水害のたびに多くの支出があり対応にこまっている。

### ⑥ 生活環境・利便性の問題

定期路線バスが欲しい。食料品がもっと買える店が欲しい。本屋、服屋、若者が、あそべる場所が欲しい。
若者の働き場所が少なく都市部へ流出し高齢者世帯が増え近い将来空屋になり家のまわりの管理がなくなる・移動の足(タクシー利用も耳が不自由の為連絡が取れない)。
気軽に立ち寄ることのできる居場所・食料支援。
道路等、安心安全な通行出来る様にと。
病院、買い物等の交通手段の確保 障がい者や高齢者にあてはまる利用活用できる制度などわからない。
買い物健康。
生活環境の改善。

## ⑦ その他

若い人と年配の方の考えの違い。
年齢の大差考え方のちがいで他意見が合わない。
同年代の話し相手が減っていく。(高齢者の方)。
手話を学びたいという高校生があり手話学習に参加してもらおう等。しかし平日は無理なので、高校でも福祉学習を取り入れてほしいと思っている。
社会福祉協議会による活動であり、独自の活動をしているわけではないので接点は直接的にはない。利用者から携わったお弁当の感想を耳にすることはあるが。
私達ボランティアは給食、調理ボランティアが主で地域の方とお会いする機会がない為。
R2年地域住民(18才以上)対象(1011名)にアンケート調査を実施→回答率76%。支援して欲しいことがあると回答された方は3%、分からないが51%だった。行政に対する要望、意見もかなり有った←地域づくり協議会が行政の組織であるとの認識されている方が結構居られる。
全国的に多発している振り込め詐欺等特殊詐欺被害の防止に関する相談や、警察署が統合され署がなくなったことから防犯面に不安がある等。
認知症や介護に関する事。
コミュニティーリーダー。

## 2-3 対応の可否

問8-2 その中で、貴団体が対応できるものにはどんなことがあげられますか。  
また、貴団体が対応が難しいことも教えてください。

	対応できること	対応が難しいこと
福祉団体	入所者の農作業の従事。	支援職員の増員。
	子育て広場をたくさんの方に知ってもらい、お母さんと子どもさんが来てもらいやすい場所作り。	—
	障がいをお持ちのお子様についてのご相談等があれば、わかる範囲で施設ほかどこに相談すれば良いか…等々適切なアドバイス。	—
	ほっとかへんネット、地域支援拠点事業。	医療を伴う人の受け入れ。
	障がい者支援。	
	見守り、声かけ、訪問。	宿泊や日常生活の把握。
	社会福祉施設として地域に役立てられる事。	コロナ感染対策中での施設内での催し。
	足がない人に対してできるだけ声かけをしている	—
ボランティア団体	—	高齢化で各事業の参加が難しい。
	今のところ問題ないが、いつでも対応できるように、イベント等における補導活動/パトロールや、通学時のマナーアップ活動、交差点等での見守り活動を実施している。	—
	できるだけ広場を開催し、遊べる場所を提供する。	—
	・傾聴のための訪問。	傾聴以外のこと
	—	6人のメンバーのうち4の方が現役で働いて居られる為、時間的に制限される他の団体と協力して何かをする事は大変にむずかしいと思います。
	喜んで食べられる弁当作り。	高齢で人が集まりにくい事です。
	傾聴ボランティアの方に手話を学んでもらったことはある。	—
	所属の社会福祉協議会の計画に基づく活動であり耳にして改めるべき点等あれば社協に伝える。	—
	年2回の行事は他の地域活動と出来ると思います(今はコロナで休止中です)	給食弁当の調理は1日の個数が大体決まっている為7人で作っています。難しいとおもいます。
	当会は町の援助を受けずに、古着の提供、毛糸、布などの提供など受けて作業を行っている。	上記の材料の提供が受けられなくなった時作業は自ずと停止します。
—	ボランティア人数が減少しています。	
—	ボランティアという事で協力をお願い(話し)しても無理を云う事が出来ない。(定年をすぎても仕事をされている為)。	

	対応できること	対応が難しいこと
当事者団体	すべての相談等に対し、関係機関と連携のもと対応している。	刑事事件に発展する可能性のある事案への対応。
NPO法人	お金が掛らない事。	お金が必要な事。
	地域を3グループで考えること。地域によって、人口構成、生活基盤が違いすぎる。	全体でのイベント等は、集まれる場所がない。町主催のイベント等との重複はさけたい。商工会主催のイベント等との重複はさけたい。
	毎週月・木・土の午前中、多数の高齢者がグランドゴルフを楽しんでいる。	高齢者をできる限り支援しているところです。若い世代が非常に少なく活動していくのが今後の課題。
	状況次第(相互の思い方)。	状況次第(相互の思い方)。
	一時的な支援(通院、買い物、草刈り、相談)。話し相手になる。	経済的な援助、長い期間の援助、専門的知識が必要な相談ごと。
	各種福祉制度につなぐこと、食料支援などの緊急支援、就労に関するアドバイス。	直接的な経済的支援(現金給付)。
公民館に集まる事で息ぬきできればいいと思うが来る事が重荷になってきつつある。	その家族の方々(親族の方)に頼られていない場合、どこまで入っていけばいいか? 又、一人では行動できず2人以上で対処しなければならない。	
地域活動団体	持ち主への電話連絡。	持ち主に対応をお願いするが、直ぐには対応をしてくれない。完全に無視をされている方もおられます。
	住民作業で処理できること。町への要望。	高額な費用が必要な事業。
	・行事の参加・ひとり暮らしの不安・生活道や水路等の維持・管理。	・健康のこと・農地の維持管理・山林の維持管理。
	・各戸に声かけて、少々のお手ついでできますが、草刈等の大きいことはできない。	・どこまでそのご家庭にかかわれるかプライバシーのことも有りむずかしい。
	声をかけあう。自宅周辺の消火BOX、消火栓は個々にチェックする。	地域で高齢者支援なり、福祉活動をするレベルを越した高齢化となり、サロン活動、スポーツ、訪問が難しい。ほとんど世帯で見守りが必要となってきているか、隣の家との距離、人間関係など問題がある。
	年に2回程度、全員で草刈をしている。	道路沿いの支障木が多く(大木になっている)伐採に困る。
	活動予定をなるべく早くに決定し、都合をつけやすくする。	—
	—	1. 空き家対策。2. 田畑の維持。
	若い人を説得する	若い人が年配の気持が理解できない。
	声かけ運動。	平日は、会社務め等、人が少ない。
	助け合い隊による支援。	
	毎年少ない会費の中ですこずつ貯蓄し対応している事。	町の支援・県の支援等は災害が発生してからが多く、ここが問題である。
	—	個人的な立場で得た情報を自治会内でどのように共有したものかと悩む。
	—	地域の高齢化と共にスタッフの高齢化もあり活動の範囲、内容が限られる。
	ゴミ出しやちょっとした手伝作業などに取り組んでいる。	福祉活動について関心をもってもらえる声かけを行うがなかなか、成果がない。
	集落内の草刈(みどりの保全隊、中山間地区)は、今の所出来ている。	これから、集落内でも、年々草刈の面積が増えて対応できない。個人の家の管理(草刈は出来ない)シルバーに依頼している。
	—	高齢化が進み活動する人材不足で大変である。
今まで通りの地域活動(除草活動、清掃活動、神社関係など)。	福祉関連活動で、「個人情報」を言い過ぎる。	
車に乗れない人をお店に連れていっておられる。	送迎。	

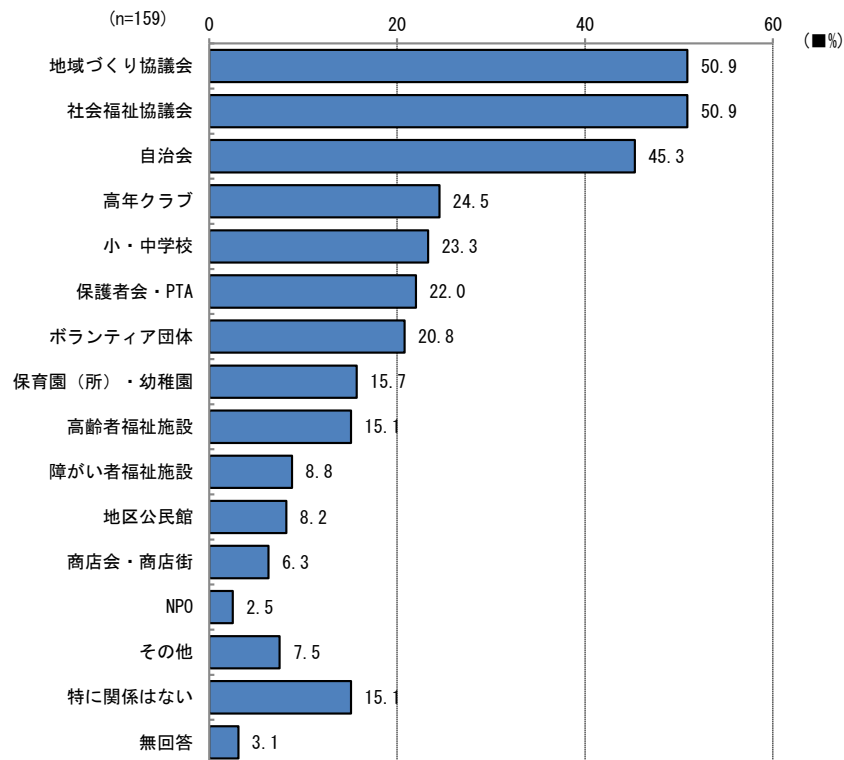
	対応できること	対応が難しいこと
地域活動団体	地域の「道づくり」の行事などを利用し、交通の支障のないよう軽微な箇所は皆で、枝打ちや撤去作業を行っている。	がけ崩れの危険のある箇所や大木などは一般人では難しい。重機が必要なケースも想定される。
	田んぼ所有者と連絡をとり整えてもらう。	—
	集落の公に関する箇所の景観保全。	不耕作地への対応。
	若い人の力をかりて活動する。	仕事を休めない人が多い
	防災活動の支援。	地域内の行事が出来にくい、負担が片寄る。
	高齢者、障がい者の支援等。	—
	自治会役員、民生・福祉委員への連絡及び対応。	個人情報に接触する内容など自治会レベルで対応できない事例。
	—	コロナで安全活動が出来ないので、活動再会出来る判断がきびしい。
	自治会内の作業や神社の清掃などで参加を免除できる場合は免除している。	集落を佐用川が二分しているため避難訓練や計画が立てにくい。
	買物については、希望品を聞き、代行している。	動物には勝てない。高齢者の高年クラブでは対応はむづかしい。
	勉強会。	物理的な取り組み。
	地域の見守り活動(声掛け等)。	空き家問題。(例えば、家人が居なく、家だけあり、地域として悪い者が来ないか？家が古くなり獣が住みつく等…。
	少口減少、高齢化のため、自治会運営が厳しい。現在の人員で負担が大きくなるばかりであるがギリギリの状況で対応している。	—
	—	少子・高齢化。
	簡単な事のみしか対応できない。	協議会の委員が2年毎(あるいは1年毎)に代わられるため、地域住民の困りごとに対応出来る組織と言えない。
	空屋バンク活用で人口減を少なくし家の管理が出来る。	企業誘致等で働き場所確保。
	後、5～10年程は、自治会で頑張れそう。	—
	美化活動(草刈り等)。	支援をしすぎるとお互いが気を使うためどの程度まで支援すれば良いか分からない。
	身の丈に合った行事へと変えていく。広域の行事として取り組む。	地域に若い人を引き留めること。Uターンや外の人を受け入れること(移住)。
	自治会長が集落の役員をすべて兼任しながら奮闘している。	草取り、草刈りができなくなった時、地域行事の決定が再来する。
	—	世の中が個人情報の重視の為、会員の勧誘が出来ない。
	高齢者、1人暮らし者の草刈り等のお手伝い。	空き家周辺の環境対策(草刈り、雑木伐採)。
	治せる物は出来るだけ早く処置をする。	難しい事は、支所に相談する。
	誰かの声がけぐらい。	集会場とか集まれない。特にこの2～3年どうしようもない。
	防災関係にはムリからでも協力して頂ける	今後はいろんな活動において見直しが必要。
	各隣保長に要介、支援者さんの状態を聞き、自治会、自主防災活動員と支援者さんの対策を共有する。	個人情報。
	ふれあい行事 防災対策。	—
	除草作業 用水路の掃除 自主防災訓練。	高齢者支援 見守り 障がい者支援。
	月一度の自治会長連絡会で情報交換し、自治会での取組の参考にしている。	空き家問題。
	他地域の若人に入ってもらおう。	日程がさだまらない。
町に要望書を提出中。	共通の問題が生じれば、他団体と協力する。	
家の周辺の草刈、重たい荷物の援助など手伝っている。	空屋で庭木が道路上へせり出し、荒れ放たの草、連絡とれないことで野ばなし。	

	対応できること	対応が難しいこと
その他	介護相談、買物代行、通院送迎、配食。	生活環境の維持、集落での出事、草刈り、田んぼの維持。
	・デイサービスの利用・夕食の利用、弁当の持ち帰り。	夕食後の送迎。
	・SNS等利用の教育、啓発・関係機関との連携。	・家庭に踏み込むなど、きめ細やかな対応。
	入所者の在宅(居宅)復帰支援。	介護度の高い方の入所受入。
	高齢者に適した、危険・有害でない作業については受注している。	危険・有害な作業については、受注できない。
	話し相手になれる。	少子・高齢化。草刈等。
	・居場所づくり(自治体・地域の方々と共に実施)・食料支援(但し、フードバンク利用のため限度あり)。	・各種活動実施に対しては対応可能と考えるが、対応できる人員に限りがあるため、対応困難な場合あり。
	再犯防止に向けての努力。	就業の問題。なかなか仕事がない。
	毎日1～2回、金融機関前、量販店前等で特殊詐欺被害防止キャンペーンの実施による啓発活動や、特殊詐欺被害にあいやすい高齢者宅の電話機に事前警告機能付通話録音装置の貸出等を行っている。	—
	在宅診療(往診)訪問看護。佐用町内には旧4町にそれぞれ小規模多機能施設があり医療機関への通院介助が出来る。	夜間、休日は対応困難。夜間、休日に対応している小規模多機能施設の職員の過重労働に見合う給料が払えず、職員が離職してしまう。
	交通手段の確保についてはさまざまサービス等の利用促進の為に制度の説明等様々な問題がありすぎるのでとにかく話を聞いてしかるべき機関へつなぐ事。	なんでも屋に見られる事のある民生委員 たのまれたら対応しなくてはいけないと思ってしまい対応してしまう事が多ので、その辺りの個人対応。

## 2-4 他のボランティア団体や公共団体等との交流や協力関係

問9 地域活動を行ううえで他のボランティア団体や公共団体等との交流や協力関係がありますか。  
【あてはまるものすべてに○】

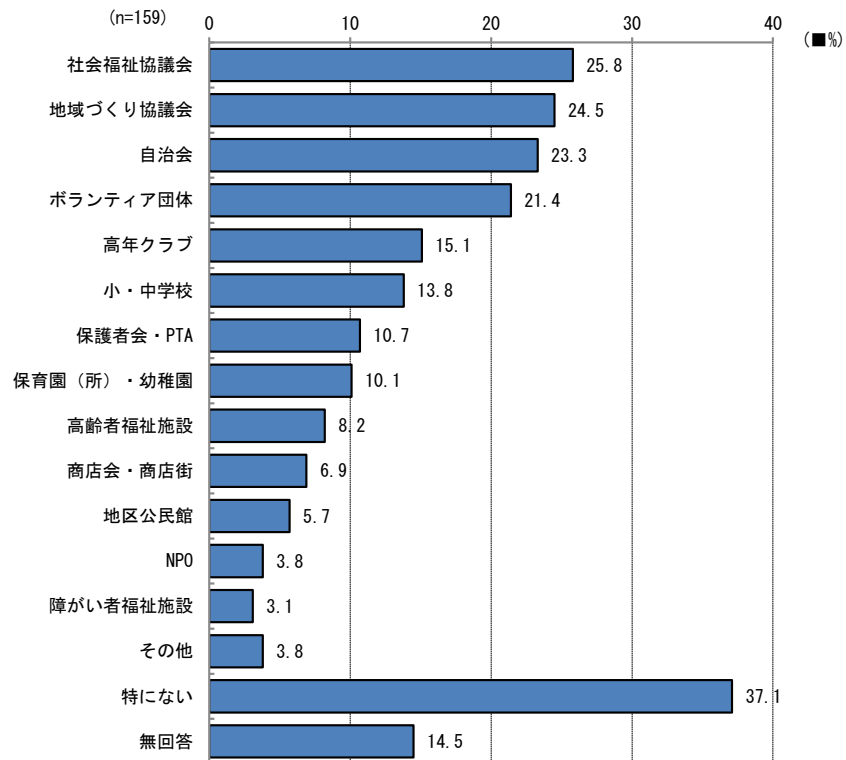
交流や協力関係にある他の団体は「地域づくり協議会」と「社会福祉協議会」が50.9%と最も高く、次いで「自治会」が45.3%となっています。



## 2-5 交流や協力を希望する団体

問10 今後、交流や協力を希望する団体はありますか。【あてはまるものすべてに○】

交流や協力を希望する団体は「社会福祉協議会」が25.8%と最も高く、次いで「地域づくり協議会」が24.5%、「自治会」が23.3%となっています。





## 2-6 他の団体と実施したい内容

問11 他の団体と交流や協力することで、実施したい内容を教えてください。

### 福祉団体の回答

入所者と地域高齢者の交流を促進したい。
地域の方や利用者が高齢になる事で次第に交流が薄くなりつつある
幼稚園の訪問、納涼祭参加、敬老会の参加
近年のコロナ禍や異常気象を経験する中での人権に関わるような問題発言や風評被害のない社会づくり、町づくりに努めたい。
近年頻繁に起こる、非日常的な出来事、特に異常気象による各種災害、初めて経験したコロナ禍、等々「人権」に関わるような風評被害や問題発言が軽々しく取り沙汰されることの多い社会環境、これらを何とか払拭すべく町づくり、社会づくりに一致協力して前進したい。
・情報の共有ができる事が大きい。・将来の職業の選択肢の一つとして、考えてもらえる。
施設や福祉サービスに対する理解や介護に対する魅力を発信して行きたい。

### ボランティア団体の回答

私共に必要な物資などの情報の交換。
意見交換などで他の団体の方針や内容を聞きたい。
すでに実施していることであるが、今後も警察、防犯協会、関係機関団体と協力して、桜まつり、花火大会、地域の祭等イベント時の補導活動、青色パトロールカーによる子どもの見守り活動、通学生徒のマナーアップキャンペーン等青少年健全育成の活動等で続けていきたい。
・現在主に高齢者の傾聴を行っていますが、幅広い年齢層の傾聴を必要としている方々との出会いの場面が設定出来たら良いと考えています。
社会福祉協議会・図書館等と点訳に関すること。

### NPO法人の回答

情報交換。協力体制。物資の交流、災害時に特に。
軽トラ市、楽市楽座、地域づくりフェスタ。
理解されにくい方々への支援(ホームレス刑事施設釈放者、ギャンブル依存症者、薬物依存症者など)一人住の方々孫達と離れて生活している方々に取り幼い子達との交流を持ちたい。以前は3世代で七夕会したりしていた。(老人会、こども会、自治会等と一緒に)

### 地域活動団体の回答

・避難訓練。夜間の避難訓練を実施してみたい。ライフラインが遮断された事を想定して、暗闇での避難訓練を実施してみたい。危険を伴うので各種団体の手助けが必要になります。
地域づくり協議会活動に参加。
ふれあいサロン、防災訓練、住民カードの説明。
助け合い隊の更なる強化。
各集会(各団体)への参加を積極的に行っている。集落での話し合、事業への集落全員で対応している。(美化・清掃・草刈等々)
他の団体組織は当地区にないので地元駐在所(佐用警察センター含む)町役場、各関係部所(企画防災課、住民課、健康福祉課、高齢介護課、商行観光課、生涯学習課、農村課、西はりま消防署(佐用消防署)、西はりま県民局等公的部の協力を得て住民の安全、住みよい豊かな地域になるよう講演、訓練等実施出来ることを行っていきたい。出前講座、防災訓練(消防、警察関係)は出来る範囲で実施可能と思っている。
ふれあい喫茶開催時に、外部講師による講義の場を設けたい。テーマは身近なもので「庭木や果樹の剪定」「ボカシ肥料の作り方」などいろいろ。
コミュニティの場の拡大、内容の多様化、地域の安全化
ふれあい喫茶の再開。現在は新型コロナ以降閉鎖しているが、再開するには新型コロナ以外にも保健所の規制が厳しくなっているが再開を目指したい。
避難訓練。
イベント等客、耕作放棄地紹介、空き家紹介。
日岡八幡神社秋季祭における屋台巡行、高齢化により若い人が少なく他の自治体の協力が必要になる。
個々に社協など、対応していただいているので継続してほしい。



### 地域活動団体の回答（続き）

いかにコミュニケーションを図るか。
講演会・講習会。安全・安心の行事を考えなければいけない。コロナ禍で様子が一変した。
いろんな事業を合同でする方向性を考えなければ進展はないと思う。
各家庭や個人に於いて、どの程度の内容まで話し合えるか。（役場とか社協に対して）
運動会の実施 グランドゴルフ大会 旧小学校の会の活用。
日本語学校や学生のボランティア団体との交流。
コロナで中止せざるをえなくなった活動を復活させてほしい。ボランティア活動で地域を整備することも（駅周辺、公共施設の整備）含む。（復活していかないと、地域交流の希薄化と道路ぞいや空地が荒れ放題になっている。）

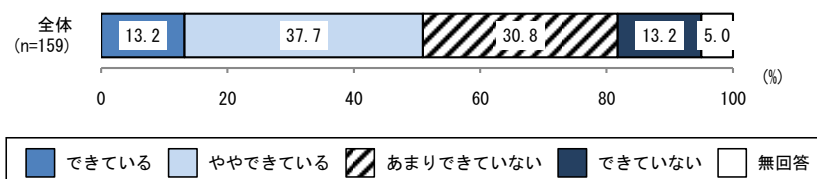
### その他の回答

保育園、小・中学校との交流会（コロナ終息後）。
・商店会、商店街と一緒にフリーマーケットをひらく（職員）。・保育園（所）・幼稚園の子と施設の利用者が一緒にクッキングや畑・花植えを行う（職員）。
駅へのイルミネーション設置（12～1月）、弁当配達でのみまもり。
会員募集の協力依頼。
・子ども会と何かと一緒に作る・保ご者の声を聞く。・どんな団体でもよく、とにかく話し合いの場をもつこと。
居場所づくり・小規模農業活動
・すでに実施していることであるが、近隣住民市町で発生している振り込み詐欺等特殊詐欺被害防止や、空き巣・忍び込み等窃盗被害防止の啓発活動及び青少年健全育成活動等。
医療機関への交通手段がない場合、地区公民館まで歩行可能であれば、公民館と医療機関でオンライン診療の可能性あり。

## 2-7 身近な地域での情報共有のしくみ

問12 貴団体から見て、コミュニティ活動や地域の課題などについて、身近な地域での情報共有のしくみができていると思いますか。【1つに○】

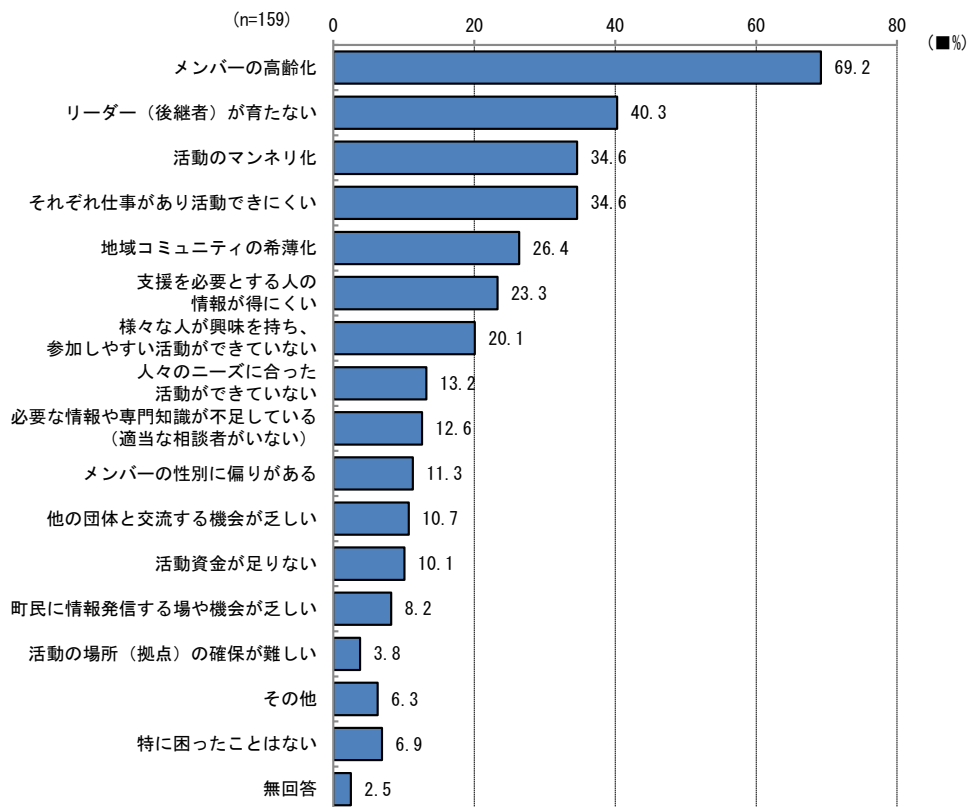
身近な地域での情報共有のしくみは「ややできている」が37.7%と最も高く、次いで「あまりできていない」が30.8%、「できていない」が13.2%、「できていない」が13.2%、「無回答」が5.0%となっています。



## 2-8 地域活動を行ううえでの困りごと

問13 地域活動を行ううえで困っていることはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】

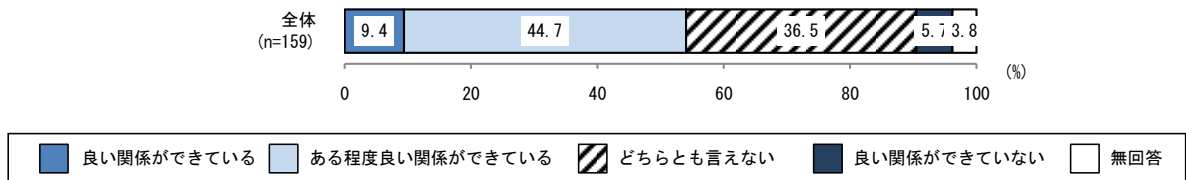
地域活動を行ううえでの困りごとは「メンバーの高齢化」が69.2%と最も高く、次いで「リーダー（後継者）が育たない」が40.3%、「活動のマンネリ化」と「それぞれの仕事があり活動できにくい」が34.6%となっています。



## 2-9-1 町民や行政とのパートナーシップ

問14-1 町民や行政とのパートナーシップについて、どのように思いますか。【1つに○】

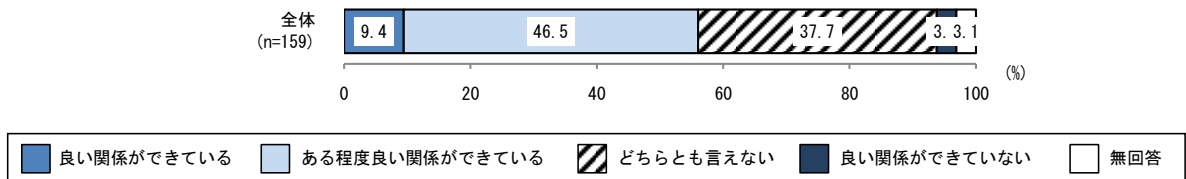
町民と行政とのパートナーシップは「ある程度良い関係ができています」が44.7%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が36.5%、「良い関係ができています」が9.4%となっています。



## 2-9-2 町民や社会福祉協議会とのパートナーシップ

問14-2 あなたは、町民や社会福祉協議会とのパートナーシップについて、どのように思いますか。【1つに○】

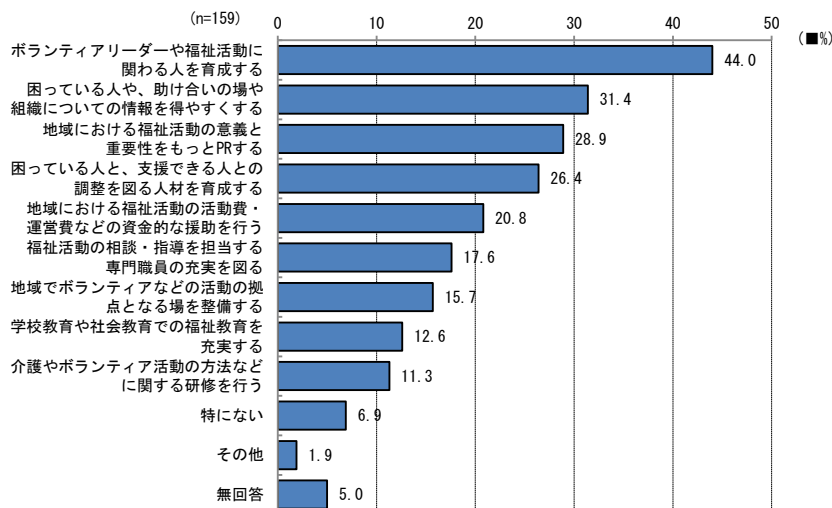
町民と社会福祉協議会とのパートナーシップは「ある程度良い関係ができています」が46.5%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が37.7%、「良い関係ができています」が9.4%となっています。



## 2-10 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには

問15 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。【3つまで○】

地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには「ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する」が44.0%と最も高く、次いで「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」が31.4%、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が28.9%となっています。



## 2-1-1 町民の自主的な地域活動を活発にするためには

問16 町民の自主的な地域活動を活発にするためには、何が必要だと思いますか。

### ① 町民のつながり

普段からの顔の見える交流、あいさつ等コミュニケーションに自から積極的に努める。
常日頃からの顔の見える関係・コミュニケーションを積極的に取り組む努力。
近所とのコミュニケーションをとりあいながら地域との連携を深めていくのがよいかと思います。特に一人暮らしの方、高齢者夫婦世帯への見守り、行事等への声かけも必要と思います。
近所同士のつきあいを大切に、仲良くなること。コミュニケーションをよくとり困ったことなどが出来ても話せるような関係をつくっておくこと。
ご近所ネットワーク。結びつき、交流等小さな範囲での強化。
昔の様に人と人が仲の良い「おおらかな」気持ちになれないものか。
ふれあう機会を多くする。
もっと住民の人と人の交流を深めて、一緒に活動が出来るような学習の場を設けてほしい。まずもっともとの人の交流が必要です。
住民同士が顔を合わせる機会を増やすこと。高年クラブでは、月1回の奉仕作業、いきいき百才体操、グラウンドゴルフの合間に会話をしているいろいろな情報を得ている。今は新型コロナのため出来ないが、住民交流イベントを開催し、住民同士の会話が活発なれば地域活動も活発になる。
声かけ、見守り。
人と人とのつながり。

### ② 地域福祉の意識醸成

一人ひとりが、その活動の意義や有用性を理解できれば活動人口も増え、活性化につながると思います。
佐用町の地域活動を理解していない人が多いと思うので知っている人が声をかけて知らない人に教えてあげる。(知人となら活動に参加する人が何人かいると思います。)
保・幼・小・中学校における系統だてた福祉教育。またそれを発展させていける環境づくり。
日常の大切さを知る事。
我を捨て、世のため・人のためという生き方を学ぶこと。人は何のために、この世に生まれて来たのか？→魂を磨くことを知れば、もっと良い世の中に変わる。
経済的、精神納な余裕 自由になる時間的な余裕 少しでも誰かのためにしてみようという福祉の気持ち 行政や社協と町民との信頼関係。
・町民がまず健康であること ・町民が気軽に参加出来る行事などがあること。
町民の意識の変革、佐用地区は佐用の中の東京化の中にあり、地域愛を高めることが困難。(期せずして、コンパクトシティ化している。)
ボランティアの人達ばかりでなく住民の協力性やる気！が必要だと思います。喜ぶ方がいる限り100円喫茶は続けます。
自分たちの地域の生活環境を維持・改善したいと思う気持ち。
まず、自主的に地域活動(福祉関係)を進める必要性がよくわかりません。もしかしたら、必要性がないのかとも、考えます。
・個人々の意識の向上。・真のリーダーとなる人の確保。
奉仕精神をもっと持った人が多くなること。

### ③ 人材育成・確保

・人材育成と研修会等の実施・行政の積極的な関与。
何をやるにもリーダーが必要ということもあるが、なかなか…どうすれば町民全体で活気ある状況がつかれるか常々思うのだが自分自身(高齢)には力が無く行動力もないので思うだけで終わっている。町民が主体的に動かなければ出来ないことを行う。小地域で文化祭や運動会等行うことも良いと思う。
町民を主体にした事業を行うこと。リーダーが必要ということもあるが合併前のようなことが無くなり町民はすべて受身で暮らしている感がある。いかにすれば活気が得られるのか常々思うことはあるが自分自身(高齢)には力が無く行動力はないので思うだけで終わっている。
若い人材がほしい。
若い方にボランティアに入ってもらいたい。
地域活動をするためには何といても若い力を必要だが、60才以下の人達は殆ど働いている。それ以上の老人は活発に動ける筈もなく、自ずと活動はしめりがちになる。目に見えて高齢化が進んでいる。
各地域活動をしている団体等の活発化を図るには、指導できるリーダーの配置と人材育成、活動費等が必要です。
ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する。困っている人と、支援できる人との調整を図る人材を育成する。困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする。
若い人の手助けが必要です。少子高齢化で難しいのが現状です。
・ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成すべきと思いますが、若者は仕事等いそがしく、高齢者は体力がなく活動がしにくい。もっと若者の人口を増やすことが必要だと思います。
誰が何を出来るのか、60才以上の高齢者が主となり活動をしないといけないことを理解していただき、高齢者が相互に楽しめる活動を指導していただきたい。活動出来る若い力が必要。
リーダーの育成と行政の支援。
自主的に活発な地域活動ができるのが理想ですが、現実には共稼ぎ家庭が増え、世話役は退職してからとなる事が多く、そこを境目に世代間の固まりができていないと感じている。町の地域おこし協力隊の皆さんをもっと幅広く活用できないでしょうか。人を呼び込むよりも、内部の活性化の為に。
・先導するリーダー・運営資金。
若い世代の増加。
地域の福祉や活動を進める地域(集落、自治会)の中で多くの経験者(福祉委員や集落の役員、民生委員)を増やす。(1人の人が長々とするのではなく、多くの人にやってもらう)。
自治会員等の会員増。
活動をするための人材(リーダー)、グループ等を育成する。
・人材の発掘。
それぞれの地域活動ごとのリーダーの配置と、人材育成が必要です。

### ④ 活動の情報発信・PR

・自主的な地域活動と盛り上げていくことで、それが地域の活性化に繋がっていくということをもっとアピールする。・公益的な取組をしている法人、団体への補助金等の支援体制。
どういったボランティアがあるのか広く知ってもらうこと。
助け合い隊の住民の浸透を図ること。
極め細やかな町の説明会を行い、地域活動の必要性を集落員全体で取り組んで行かないといけない。町民及び職員が方向性をわかっていないのが現状ではないか。何か一つでもできる事からはじめていく事が大切では。
各自の意識が重要であり、何が出来るかを考え、出来ることから始めることをもっとPRする。
福祉活動への理解を深めてもらい関わってもらえる人を増やす。
ケーブルTVを見ていると活発に活動されている地域があります。TVだけでは、内容がわかりにくいので、参考にする事ができません。講師さんは誰なのか、活動メニューは何か、HPや研修会インスタグラムなどで紹介してほしい。
広報。
地域活動の意義や重要性及び現在活動されている団体の活動内容や目的を町民に周知する。又、各団体が、町民に対して必要な時に情報発信する機会や場を整備する。
町民それぞれが興味を持つような活動内容の提供 場所の確保 それに伴う住民の意欲向上ができるようなPR等。

## ⑤ 連携・協働

町当局や社会福祉協議会との連携が大切だと思います。
各自治会が行政と連携していくことが大切。自治会、各種団体により地域活動を強化していく。
自主的なNGO、NPOの活動の支援。行政の枠組みから考えるのではなく社会のニーズから考え、行動していく発想と行動力。
地域住民の福祉活動は大切な問題であり、互いに助け合うことは継続すべきであります。ただ地域のボランティアの方や福祉委員の方にすごく負担がかかっていることは忘れてはいけない。当然無償に町行政は頼りにしているがボランティア活動にも限度があると思う。活発化にならない原因の1つである。自治会役員に地域のことを任せすぎ、行政担当、専門の指導者が地域に出向いて一緒に行動すべき。机上だけが仕事でない。町内各地域に出向いて活動すべきです。地域住民と行政が同一の行動をすることを皆が見れば充実した福祉の佐用町になると信じる。
(秘)情報等について、すべて自分で集めなくてはならず公的機関においては最低限の情報共有は、すべき。福祉委員においては私共では共有できる様動きかけています。

## ⑥ 行政支援

行政のイニシアティブ。
町の援助。
行政の指導が必要。
自治体の側面的援助が必要。
活動資金等に対する補助(例えば、ボランティア活動は、活動当初は「想い」だけで実施できるが、ある程度活動していくと金銭的な負担や、少しでも収入を得たいとの諸問題が生起すると考えられる。資金補助があれば、より活動しようとする団体等は増え、活性化につながると考える。また、補助を行う場合は、申請の容易性、簡略化が求められる、複雑となると申請しないと考える。)
活動した時の日当、公的福祉サービスと地域の融合、公的機関の支援。
活動費の増額。
現在ある町民交流センターの活用を大いに図るべき。町の合併前の町民運動会等のイベントで盛り上げるべき。

## ⑦ 人口増加

福祉情報の発信、町おこし(若者)、過疎地の交通手段、他府県からの受け入れ、空き家の有効利用・農業支援。
人口減少。人口を増す為の活動が必要と思う。
若者の定住・働く場所の確保。親との同居の促進。
地域に若者が定住していないため、大変かと思う。
魅力ある企業等の誘致により若者の流出を防ぐと共に、県外からの移住者を受け入れる。
少子化対策、人口増加対策(移住者受入など)。

## ⑧ その他

今していることを地道につづける。つづけることがむずかしい。
地域活動に魅力が必要。
現在、廃園、廃校で統合されましたが、必然的に若者世代は移住し祖父母の憩いの場も無くなり、子どもの声や姿さえ目に止まらない今、子どもは村の宝と全体で育成した時代を思い出話しとして聞き、毎日、生活が送れて子ども達に心配を掛けない様にするのが精一杯と思いを語られます。
無理をせずに、楽しく活動できる環境を作っていく。お金と人材は必要だがないものねだりをしてもしかたがない。いつか、自分も助けをもらう時がくることを、皆が、自覚することだ。今でも頑張っているのにこれ以上何を活発にしろと言うのか。この質問はいかがなものか、腹が立つ。
制限をゆるめ、町民の自由な意見・動きを認めてゆく。
参加しやすい環境、手軽さ。
自分のため、人のため、無理をせず、できることをする。
各種団体の役員の見直し(1人当りの兼務が多すぎるのではないか)。
地域づくり(協)へ、町民を多く参加出来る様に促す。
地域の伝統行事を守り、地域住民の参加し協力して頂く事 例えば8月の納涼祭10月の秋祭り等々地域住民の皆さんが参加しやすくする事。
集落単位でのボランティア化、配食、送迎(買物、通院)、60、70代のマンパワーの活用、ゆいの活動の復活、集落単位(家)として考え、生活支援を行う。
地域づくり協議会を活発にすること。

若い人や女性が活動しやすい場や活動内容をつくり出すこと。
心の余裕 生活の安全。
プライバシーのことをいわない個人をつくること。
活動者のことを悪くいわないこと。

### ⑨ 課題

十数年前とは違いボランティア活動に対して考え方も大きく変りつつあるように思われます。又60才定年も現在は65才迄となりボランティア活動に対しても時間的にゆとりもなく元気で働ける間は精一杯働きたいという気持ちの方々が多くなっているように思われるので地域活動もしなくて良い事は参加したくないとの考え方の人が多い。
・自由に活動できる年令が、高齢になっている。・人が集まらない。・高齢になると、自動車に乗れない。活動ができていく。
地域活動には参加はするが、それで終りが一般的である。活動員が一生懸命になるには、慰労会なり、忘年会なり年に1、2回は心を開いて、雑談する機会が必要だと思います。コロナ禍で、何もかも「しない」では、意欲は、出ないと思います。
年金受給年齢が上っているため退職後も働く人が増えている。そのために自治会役員などの忙しい役になってもらう人が少なくなっている。
自治会役員はすべて男性が選出される仕組みになっている。女性がもっと前面に出て来られるようにしなければならない。また、定年後も70歳前後まで仕事を続ける人が増えているため、役員になり手がいない。
高齢化が著しく、特に独居老人世帯が多い。また福祉活動に携われる。人材が確保するのも難しくなっているのが現状であります。
長びくコロナで元気をなくしており活動に大きな支障がでていて見直しが必要だと思います。
自治会の作業とか訓練とかは、目的がはっきりしている為はその日時に皆様集合し活動出来ますが、福祉という目的が広範囲で何をしたら良いのかわかりにくく、目的を絞ったものにとすると集まる人が限られそれはそれで活動出来ないジレンマ、役を受けた人だけに負担が係りだれも役を受けたがらない。
何が必要かわからない。自主的な地域活動とはなんぞや、具対的に思い浮かばないほどむずかしい課題です。現状に満足していることが活動につながっていると考えます。
介護保険料の負担増加のために今後介護事業のしめつけが強まる。公民館を活動拠点にして要支援高齢者が集まり、認知症が進まない様な介護保険外サービスが求められてくるのではないかと。

## 2-12 自由記述

問17 現在の貴団体と行政との連携状況や取り組み、今後地域福祉推進のために取り組みたいこと、住民組織等との連携等について、自由に書いてください。

### ① 高齢化・高齢者支援

老人世帯への支援を地域の方と協力して行っていきたい。
様々な取り組みを行うにしても人材不足(高齢化)で何にもできない。
町の支援事業(サービス)を理解していない 例えば65才になった人に福祉サービス(支援)ガイドなどを配布するとかをしてほしい。
これまでいろんな行事に参加されていた方が、高齢化に伴い欠席されるなど、集まれる人数は減り、家庭にこもらざるを得ない人が増えている。その人たちをいかにケアするか、今も民生委員、協力委員、福祉委員さんに頑張ってもらっていますが、もっと自分自身関与したい。
医師会として介護事業を支えてきたが、国の政策を見ると介護サービスの低下で在宅での高齢者の生活は困難になっていく。災害時にも宿泊機能は必要で公民館のバリアフリー化、トイレの改修自家発電など住民が活動しやすい環境を整備する必要がある。
特別養護老人ホームとして地域に役立てる事があれば積極的に取り組んでいきたい。
若い人は自分の仕事や勉強があるので(しかも少人数)なるべく負担をかけない様に高年になる方は、フレイルに陥らない様に自己責任でとにかく体を動かす。

### ② まちづくり

町公報、防災行政無線、佐用チャンネル(ケーブルTV)等を通じて今以上の「地域の皆さんに知ってもらおう」ことを目指した活動展開(連携)につなげたい。
今以上の連携強化に努める上で、本会(団体)の特性をもっと知ってもらう為に会報誌、メディア、IT等を介しての広報活動の展開(連携)の必要。
高齢者の支援しか考えられないのが残念。子育て支援として保育園児と小学生ともに参加できる行事を計画したい。(2世帯しか園児児童がない。来年からは1世帯となる)

### ③ 相談先

県事業の一環として、相談業務等実施させて頂いているが、より地域の困りごとを把握するためには居場所等の活動を行なうのが良いと考えます。ただし、活動は事業者単独では困難であるため、行政や社会福祉協議会等と連携して実施することが不可決である。共に問題把握、情報共有ができれば今後の事業等に生かすことができると考えます。
若いひとり親家庭の情報等がわかり同じ境遇の同志での場(集まり)として心のよりどころになれる会に出来ればと思います。

### ④ 経済的支援

・今年度より兵庫県、佐用町のバックアップのもと、地元農家との農福連携事業を行っているため、次年度以降も継続できるように取り組んでいきたい。
・当法人は生活困窮者自立支援法による、一事生活支援事業など困窮者支援も行っているため、町内で生活に困窮されている方の受入も行政と連携してできればと思う。

### ⑤ 行政

各自治会が行政と連携していくことが大切。自治会、各種団体により地域活動を強化していく。
行政の農業に関する受付窓口を、もう少し簡素化してほしい。
守秘義務のもと活動している民生委員はそれぞれの情報収集に非常に苦労している 個人情報保護の為に基本的な情報まで教えてもらえない状況をもう少し改善してほしい。行政からの情報提供をもう少し公開してほしい
福祉に関してはそれぞれの法人(団体)の垣根は本来低いものであるはず(べき)で、行政主導の基で地域福祉の課題を共有すべきだと思います。現在当法人は全く関与していない程度です。
自治会内での困りごとに関しては積極的に日頃から意見を聞いてそれを行政に伝えて少しでも解決する努力は怠たらないようにする。
行政の担当者は仕事とであって貴団体は、あくまでもボランティアである 行政は、あまりにも自治会等にたよりすぎず行政がもっとしっかりする事だ!
行政の内容(仕事)を丁寧に説明し欲しい 福祉課はこんな事をする所ですよ 誰もが分る様



### ⑥ 移住定住・就労場所

人口減少。人口を増す為の活動が必要と思う。
福祉とは関係ないことですが住民の困りごと(道路や水路関係、防犯灯、樹木の伐採等)町へ相談するとすぐに対応して頂けるとありがたいです。

### ⑦ 障がい者支援

図書館・社会福祉協議会・小学校等と点字をとおして、ボランティアや障がい者人々との交流、日常生活で障がい者の方々(老人・病気の方々にも)どんなことができるか考え、ささやかな行動を日常生活の中でしていきたい。
手話に関心をもってもらいたいと思うものの機会はそんなに無く学校や団体等で関心をもってもらえるといいのだが…

### ⑧ 連携・協働

現在、町役場の企画防災課、消費者センター等と連携し、特殊詐欺被害、悪徳商法被害防止、暴力追放運動等また教育委員会と連携した青少年健全育成活動等を実施しており。今後もさらに行政・防犯ボランティア団体等と連携を強化していき、地域住民が犯罪や事故の被害にあわない活動を実施します。
学校、教育委員会、健康福祉課と常に情報を共有し、また、本人と保護者の意思も十分に確認しながら児童生徒の適正な就学に向けて審議しています。
他の活動団体との交流。例えば、いずみ会こども会との交流。
事務局会議を毎月開催し、地域づくりの活動について協議する場を設けている。地域づくり協議会の役員だけでなく、まちづくり企画室や支所の担当者、また社協からの参加もあり、情報交換やアドバイスを得る場にもなっている。
福祉推進に地域づくり協議会も入れること
お互い気兼ねなく、身のまわりの支援ができる体制について役員会で検討している。
当集落は、町中心部からも遠方で僻地である事から、常に行政等に頼らず「自分達の事は自分達で守るよう取り組みたいと考えているが上記に記入している様にそれぞれに携わる人が居ない。隣りの集落との統合も今後検討していかなければ、ならないのかとも考えます。
・地域福祉の拠点として、地域コミュニティとの連携を深めたい。

### ⑨ 個人情報保護

守秘義務のもと活動している民生委員はそれぞれの情報収集に非常に苦勞している 個人情報保護の為を基本的な情報まで教えてもらえない状況をもう少し改善してほしい行政からの情報提供をもう少し公開してほしい
高年介護・警察等も行きましたが上記設問について個人情報を理由に教えてもらえなかった。

⑩ その他

まちづくりブック(2013年発行)の進捗確認と、住民アンケートからまちづくりブックの改訂
時代に即した青少年を取り巻く環境に対応し、青少年の非行・被害予防に務めていく。
自治会は自治会のことを地域づくり協議会は地域のことをすすめるため組織の見直しを行い、今年度からグループ活動を中心に活動を展開しようとしています。その事から地域課題をみつけていくようにします。
町内で地域福祉のカリキュラムを修了すれば地域福祉のエキスパート的な資格を与えるのはどうでしょう。(防災士的な)町認定の認定書発行？
「さよう桃源郷づくり」を進化させる。
今現在行政(社協含む)とはあまり連携はない。3者連絡会等協議会も入っているが社協の行事について協議会に入ってしまうと協議会の業務が今以上に増えて動きがとれなくなる。社協本来の業務は責任もって組織としてやるべきである。補助金を増額でも自治会として負担が多くなり喜んでいない。この内容を協議会になれば役員のなる方がなくなる。行政と住民組織の連携、協力はするがすべて地域のことは地域に任かされては負担増となり、前向きに行動出来ない。しんどいと思うようになると心配する。連携の度合いが問題である。地域の福祉活動はやるべきであります。地域に負担をかけすぎではダメ、ボランティアにも限界がある。金はいらないとの方もあるかもしれませんがそれでは続きません。もう少し地域のことは地域の方でばかりの方針ではなく行政も地域に入って皆で安心、安全な町づくりをめざさないと活発な福祉活動は出来ません。自助共助(地元と役場の連携、協力して取組むべき)公助(役場が地元の声を聞いて取組むこと)であるがどうも最近自助であるのが当りまえに思われ、共助も地元中心となり、公助がなくなったように思う。地域も人口減で限度あり。各自治会の役員、福祉関係(福祉員、民生児童委員、協力委員)の皆様は各家庭あり、仕事もされています。あまりにも行政からの負担にこまっておられます。地域における助け合い支え合い活動は大切なことであり、当然やるべきことと思いますが、地域のボランティアの方々に頼りすぎることを思っている内容の質問に対して疑問を感じます。行政としてそれでいい福祉が出来ますか？方向がおかしく行政が中心ではないですか。ボランティアの拠点の整備も必要ですが、リーダーの育成、研修するとか必要かもしれませんが地域が主ではありません。行政が主でやるべきことです。これでは佐用町は良くなりません。よく考えて福祉計画を立てて今後の福祉活動の基本を策定して下さい。地域づくり協議会も行政に頼ってすべての福祉サービスをすることにはなっていない。それをどうするのか今検討することにはなっていますが今以上に負担増になると役員のなり手がなくなります。今回のアンケートの質問の仕方にも問題があると考えられます。地域が活発化する福祉計画のためには地域の皆様がどうあるべきですか、どう取組みますか、何が必要ですかとなっている。こちらの地域のことばかり。行政のことが何も記入されていない？問題点としても地域の問題点ばかりから選ぶ。行政の問題点はなし？社協の位置づけにも問題あり、社協は全国的な組織であるが地域づくりで取組みされれば社協としてしなくてよいとの答えがあった。社協は必要ないのか。もっと存在感(必要性)を言うべきであろう。行政(町として)の指導が必要ではないか。ご検討願うしか言いようがないアンケートでした。